

米子市埋蔵文化財センターたより

第60号 2026年3月



令和8年度の事業予定

令和8年度の埋蔵文化財センターの事業は、4月25日(土)から6月7日(日)まで、米子市立山陰歴史館との共催で「米子の水と人の歴史」の企画展を開催いたします。

今年は米子市内に水道が開通して、ちょうど百年の節目の年に当たります。今では水道の蛇口をひねればすぐに清潔な飲み水が出てきますが、百年前までは、安全な飲み水を手に入れるのは容易なことではありませんでした。今回の展示では、昔の人々がどのようにして水を得ていたのか、先人たちが歩んできた苦勞と共に、水質の良さでは全国でもトップクラスと自負している米子の水の歴史を掘り下げていきます。

展示会場は、米子市立山陰歴史館(午前9時30分～午後6時まで、毎週火曜日と5月7日と8日は休館)、観覧料は、一般300円、大学生以下と70歳以上の方は無料です。また、関連イベントとして、歴史講演会と史跡ウォークを予定しています。

講演会は、4月25日(日)の午後2時から、米子市文化ホールにて、米子市埋蔵文化財センターの学芸員による「水をめぐる考古学」の講演を行います。また、5月17日(日)には米子市立図書館にて、鳥取市教育委員会文化財課の佐々木孝文課長を招いて、近代水道の歴史について講演いただきます。講演会は席に限りがありますので、事前に山陰歴史館(電話0859-22-7161)まで、参加申し込みをお願いします。

史跡ウォークは、5月23日(土)の午後1時から、米子市水道局が所在する観音寺周辺の歴史スポットを巡る予定です。集合場所は、米子市観音寺の米子市水道局駐車場です。こちらは、20名限定ですので、参加を希望される方は、5月20日(水)までに米子市埋蔵文化財センター(電話0859-26-0455)まで、申し込みをお願いします。

整理室たより

1月6日に発生した地震の被害について

令和8年1月6日の午前10時過ぎに、島根県東部を震源地として発生した最大震度5強の地震では、埋蔵文化財センターと福市考古資料館でも被害がありました。

福市考古資料館では、展示品の土器が転倒し、破損しました。埋蔵文化財センターでは柱に亀裂が入り、3階の収蔵庫では、固定していなかった整理中のコンテナが棚から落下して遺物が散乱しました。大変な被害ですが、幸いなことに、過去の発掘調査報告書に掲載している遺物は、全ての棚に落下防止のベルトを付けていたため無事でした。

やはり、普段から地震の備えが必要と感じました。(佐伯)



棚から転落したコンテナの状況



柱に入った亀裂



落下防止のベルトが有効でした

コラム 米子の考古学史 ④坪井正五郎の人類学講習会

前号では、明治34年に人類学講習会のために米子を訪れた坪井正五郎が、足立正の案内で橋井半雲のもとを訪ねたエピソードを紹介しましたが、今回は講習会期間中の坪井の動向を見てみましょう。

坪井の米子滞在中の行動は、講習会に参加した西伯郡視学(注1)の羽山八百蔵の報告に、詳しい旅程が掲載されています(注2)。

7月30日 米子町に到着、すぐに学校会場の視察。夜には中海での祇園提灯祭を見学。

7月31日 古物実見のため、逢坂村(橋井半雲宅)へ出張。

8月1日 淀江町養良小学校において、付近から発掘された古物について「人類学者の眼に映ずる古物遺跡」を講話。帰途、淀江警察署にて、前年、長者ヶ平古墳から出土した遺物を見学。米子町でも、角盤小学校にて「人類研究の発達」を講話。

8月2日 講習会開始。毎日、午前8時から11時まで、9日間実施。

8月4日 講習会終了後、午後から淀江に向かい、天神垣神社の境内で石馬と出会う。

8月10日 閉会式の後、会員には講習証明書が渡された。受講者149名。講習会の終了後には記念撮影が行われ、慰労会が開かれた。

8月11日 帰途へ。講習員一同、日野川で見送り。倉吉町にて「日本古今の住民」講話。

盛夏の中、開かれた講習会でした。残念ながら、この時に行われた講義の内容を示す記録は残っていませんが、坪井はこの時38歳、東京から来た新進気鋭の学者の講義に、受講した人々は初めて聞く人類学という学問と、古代の歴史資料が自分たちの身近にあったことに驚いたことでしょう。

講習会の概要をまとめた羽山は、報文の末尾で「講習の結果として、人類学的知識の普及俄かに望むべからずと言えども、人類学は古物の学問なりと心得たる者に、人類学研究の現在に必要なことを知らしめたること著名なりき」と結んでいます。

当時の米子人にとって、坪井の講演と石馬の発見は、郷土の歴史に目を向けるきっかけとなりました。そして、坪井の来訪が端緒となり、バタフライ・エフェクトのように、石馬をめぐる熱狂的な動きへと発展していきます。(佐伯)

注1 視学(しがく)とは、旧制の地方教育行政官のこと。羽山が、この講習会を企画した担当者とみられる。

注2 明治34年9月『東京人類学会雑誌』第十六巻、第百八十六号「雑報・西伯郡教育会夏季講習会概況」

遺跡シリーズ 吉谷銭神遺跡(よしたにぜにがみいせき)

-鍛冶作業を行う奈良時代の集落-

平成12年の1月から3月の厳冬期にかけて、国道180号線の工事に伴う発掘調査を実施しました。

この遺跡は、縄文時代から平安時代まで断続する集落遺跡で、陥穴、竪穴建物、掘立柱建物など、狭い丘陵上に様々な時代の遺構が形成されていました。

特に、奈良時代には、丘陵の斜面を大きく削って平坦面を作り、柵で守られた範囲に建物が建てられていました。

ここからは、墨書土器のほか、鍛冶作業で生じた鉄滓が出土していることから、小規模な鍛冶工房を持つ集落だったと推測されます。(佐伯)



南上空から見た吉谷銭神遺跡

埋蔵文化財センター・ 福市考古資料館日誌

編集後記

1月 5日(月) 仕事始め

1月 6日(火) 午前10時18分島根県東部を震源地とする地震が発生

1月27日(火) 鳥取県立むきばんだ史跡公園 水村氏が資料調査のため来館。

2月11日(水) 企画展「米蔵が見つかった！
～3月30日(月) 米子城跡三の丸の発掘調査～」を開催。

2月21日(土) 米子市立山陰歴史館と協力して「特別講座 たたら製鉄に伴う砂鉄採集ワークショップ」を開催。

2月27日(金) 日南町人生学園の講師として下高館長が講義。

3月 8日(日) 考古学講演会「米子城跡 三の丸の発掘調査」を開催。

3月20日(金・祝) 史跡ガイドウォーク3「尾高城跡を歩く」を開催。

3月28日(土) 史跡ガイドウォーク4「米子城跡を歩く」を開催。

3月29日(日) 目久美町公園オープンまが玉づくりを開催。

新年早々に発生した地震では、短時間に複数回の地震が起こり、埋蔵文化財センターの建物も大きく揺れました。いざという時のための備えも必要ですが、突然の地震にも冷静に対処できるよう、普段からの心構えも大事だと痛感しました。

この「たより」も今号で60号となりました。次号からは、この「センターたより」と「福市考古資料館通信」、「山陰歴史館たより」の三誌を合わせた新しい情報誌が誕生します。ご期待ください。(佐伯)

発行日 令和8(2026)年3月31日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
所在地 鳥取県米子市福市281番地
指定管理者 (一財)米子市文化財団
電話・FAX 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp